



園だより1月号
令和5年1月10日
新潟市立新津第三幼稚園

「子どもたちに寄り添う」

園長 川合 千尋

新しい年を迎えました。昨年も困難な状況の中、園の教育活動にたくさんのご支援をいただきましたこと大変感謝申し上げます。皆様方のご支援に感謝し、子ども達一人一人の成長に喜びを感じながらこれからの教育活動を推進して参りたいと存じます。今年も新津第三幼稚園をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

「子どもたちに寄り添う」ということは、子どもたちの話に耳を傾けることから始まります。子どもたちは、自分が感じたこと、心を強く動かされたことを一生懸命に伝えようとします。でも、まだ言葉を十分に持たないまま伝えようとするので思うようになりません。そんな時、園の職員は、子どもたちの言葉を違う言葉で置き換えたり、言いたいことを想像して言葉を足したりして子どもたちの伝えたいことを理解しようとしています。なんとか自分が伝えたいことが伝わったと感じた子どもたちは満足した笑みを浮かべます。うまく伝わらない子はやるせない思ひを表情で伝えます。

自分の気持ちが言葉で伝わった子どもたちは、とてもうれしくなると、また言葉を覚えて使いたくなります。その言葉を獲得しようとする意欲が、学びを続ける力を身に付けるためにとっても大切だと思ひます。大人がどんなに新しい知識を子どもたちに教えようと努力しても、子どもたちが言葉に対する意欲を持たないままでは意味がありません。逆に、言葉を獲得しようとする意欲を得た子どもたちは、新しい体験からどんどん新しい言葉を獲得し、学ぶ意欲を育んでいきます。

毎日忙しい中で、じっくりと子どもたちの話に耳を傾けることは結構難しいことでもあります。それでも、それは「子どもたちに寄り添う」第一歩であり、子どもたちの成長にとって、何よりも効果的な取組であると強く思っています。また、何よりもその瞬間が子育ての楽しい時間でもあります。さあ、お正月を過ごした子どもたちはどんなお話をしてくれるのでしょうか？とても楽しみです。

